

## 化学のりを全く使わない家が、 本当の健康住宅なのです。

身体に良くないものは使わない。こんな当たり前のことに目をつぶってきたのが日本の住宅産業です。コスト優先、均一な品質で大量生産するために、化学建材を多用した住宅づくりが「シックハウス」を生み出したと言えるでしょう。シックハウス症候群の原因のほとんどが接着剤に含まれる化学ノリだとわかってきました。そこで私たちは、化学ノリをいっさい使わずに家を建てることはできないものかと長年研究してきました。そして、ついに身体に良い無添加の家を完成させました。建材などには天然素材を吟味して選び、究極の無添加を実現。化学物質を使わずに、自然で健康な家づくりを進める「無添加住宅」の誕生です。私たちの「無添加の家」は、極限まで自然素材にこだわっています。たとえば、化学ノリに代わる接着剤として、米でつくる「米のり」、動物の骨や皮でつくる「にかわ」などを使っています。長年の研究の結果、無害な自然のりを安定的につくり、建具に利用するなど実用化することができたのです。また、問題の多いビニールクロスに代わる内装素材として、安価な「漆喰」塗り工法を開発するなど、化学物質を使わない無添加の素材と工法で住まいづくりを進めています。

### 「天然物質」だから安全とはかぎらない？

スギやヒノキが長生きし、大きく成長するのはどうしてかご存知ですか？

大きく成長する木はそのもの自身を虫や腐朽菌などにおかされないように守っているのです。

だから長生きするんですね。では、どうやって守っているのでしょうか？

答えは木自身が虫の嫌う化学物質を出しているのです。これも多過ぎると人に影響を与えます。化学物質過敏症の人は気分が悪くなるそうです。

家をつくる時、例えば、土台にはシロアリや腐朽菌に侵されないようにヒノキを使い、他は化学物質をあまり出さない木や漆喰でつくる。

要は素材のバランスが大事なのです。

漆（うるし）などはかぶれるし、鳥兜（とりかぶと）などは人さえも死んでしまいます。天然素材だから安全だということは無いのです。

だから無添加に  
こだわりました。